



Find What You Love And Let It Kill You

～50人に聞きました！老いも若きもまずはこの1冊から～

はじめての海外文学



- 『翼ひろげて』ロビン・クライン 偕成社 9784037441104 ¥1360 (※)  
『罪と罰』フョードル・ドストエフスキー 新潮文庫  
(上)9784102010211(下)9784102010228(上)743円(下)¥781
- 『ディア・ライフ』アリス・マンロー 新潮社 9784105901066 ¥2300  
『伝奇集』J・L・ボルヘス 岩波文庫 9784003279212 ¥720  
『都市は何によってできているのか』パク・ソンウォン クオン 9784904855157 ¥2200  
『肉体の悪魔』レイモン・ラディゲ 新潮文庫 9784102094020 ¥430  
『バスカヴィル家の犬』アーサー・コナン・ドイル 光文社文庫 9784334761806 ¥629 (※)  
『花言葉を探して』ヴァネッサ・ディフェンバー ポプラ社 9784591127001 ¥1600  
『バビロン行きの夜行列車』レイ・ブラッドベリ ハルキ文庫 9784758438483 ¥940  
『春にして君を離れ』アガサ・クリスティ ハヤカワ文庫 9784151300813 ¥680  
『ハロルド・フライの思いもよらない巡礼の旅』レイチェル・ジョイス  
講談社 9784062184007 ¥1900
- 『ピース』ジーン・ウルフ 国書刊行会 9784336057884 ¥2400  
『復讐法廷』ヘンリー・デンカー ハヤカワ文庫 9784151784019 ¥900 (※)  
『変愛小説集』岸本佐知子編 講談社文庫 9784062779074 ¥800  
『ペンギンの憂鬱』アンドレイ・クルコフ 新潮社 9784105900410 ¥2000  
『町でいちばんの美女』チャールズ・ブコフスキー 新潮文庫 9784102129111 ¥790  
『マルセルロ・イン・ザ・リアルワールド』フランシスコ・X・ストーク  
岩波書店 9784001164039 ¥1900
- 『ミスター・ピップ』ロイド・ジョーンズ 白水社 9784560090046 ¥2300  
『6日目の未来』J・アッシャー キャロリン・マックラー 新潮文庫 9784102182710 ¥710  
『郵便配達は二度ベルを鳴らす』ジェームズ・M・ケイン 新潮文庫 光文社古典新訳文庫  
(新)9784102142035(光)9784334752958(新)¥490(光)¥980
- 『雪の中の三人男』エーリヒ・ケストナー 創元推理文庫 9784488508029 ¥580 (※)  
『よきた、ジーヴス』P・G・ウッドハウス 国書刊行会 9784336046765 ¥2200  
『レイモンド・カーヴァー傑作選 Carver`s Dozen』レイモンド・カーヴァー  
中公文庫 9784122029576 ¥648
- 『老人と海』アーネスト・ヘミングウェイ 光文社古典新訳文庫 9784334752996 ¥600  
『若き日の哀しみ』ダニロ・キシュ 創元ライブラリ 9784488070724 ¥900  
(※)品切れまたは在庫僅少商品。復刊、重版されますようにとの願いをこめて。



## 『はじめての海外文学フェア』開催にあたって

“Find What You Love And Let It Kill You” 「本当に好きな物を見つけて、そいつにことごとんやられちまえ！」  
ブrouスキーのことばと言われていますが真偽は定かではありません。でもこのフェアの趣旨にぴったりだと思いま  
したので使わせていただきました。

いや、実はきっかけは、、ほんとのことを言うと自分ひとりでやる自信がなかったからでした。というのも、海外文学  
はもともと好きで、どうしたら売れるのかずっと考えてはいたのですが、自分も人に胸をはって勧められるほど読ん  
でいないのではないかと感じていたからです。だから入門フェアを考えるにあたって、これはわたし一人で選んだ  
のでは、説得力に欠ける面白くないフェアになってしまうに違いない、そうだそうに決まってると思いました。だつた  
らどうするか、それでも入門フェアはやりたい。待てよ、まわりにたくさん素晴らしい海外文学読みがいない  
か！ そうだ、たのんじゃおー。というまったくの他力本願から生まれたフェアなのであります。どうもすいません。  
さて、メンバーに選書をしていただくにあたってお願いしたことが3点あります。

1. 従来の入門フェアに入るような古典的なものは避けること。  
対象を完全なる初心者というよりは、一度読んで以来ダメで海外文学を避けてきている方々としたか  
ったので。
2. 値段は本体価格 2500 円まで。  
苦手なものに高いお金は払えません。でも文庫だけにもしたくなかったので、ギリギリのこの値段  
でお願いいたしました。
3. こちらは全員ではないですが可能な方のみ、普段は日本の小説を読んでいる人むけに、こういう本を  
読んでいる方におすすめですという、日本人作家さん、または作品を提案していただきました。少しでも  
ガイドになると嬉しく思います。

集まってみると、50人が50人それぞれの異なる想いと、おそらくそこは重なる海外文学への愛がぎゅっしり  
つまった素晴らしいラインナップになったのではないかと考えております。

初心者には難しいんじゃないの？ とパッと見て思うかもしれませんが、それにも理由はあるんです。ひとり  
ひとりのコメントを見て、ご自分に一番合ったものを選んでいただければと思います。

一冊目がおもしろく、次へまたその次へとつなげてゆくことができればこれ以上ない喜びです。

海外文学は広くて深いです。なんせ日本以外の国の書物まみんな海外文学ですから。

たった数冊で放り投げてしまっただけでは、もったいないもったいない。

これからたくさんいい本とめぐり合っ、脳天から稲妻が走るような衝撃をたくさん受けてください。よい出会  
いがありますことを(みなさんにも、わたしにも！)お祈り申し上げます。

## 掲載作品リスト (タイトル 50 音順、本体価格)

- 『穴』 ルイス・サッカー 講談社文庫 9784062755870 ￥600  
『アメリカの罅釣り』 リチャード・ブローティガン 新潮文庫 9784102147023 ￥550  
『いちばんここに似合う人』 ミランダ・ジュライ 新潮社 9784105900854 ￥1900  
『一角獣・多角獣(異色作家短篇集)』 シオドア・スタージョン  
早川書房 9784152086815 ￥2000  
『オフシーズン』 ジャック・ケッチャム 扶桑社文庫 9784594029791 ￥599  
『カーデュラ探偵社』 ジャック・リッチー 河出文庫 9784309463414 ￥840  
『怪物はささやく』 パトリック・ネス あすなろ書房 9784751522226 ￥1600  
『ガットショット・ストレート』 ルー・バーニー イースト・プレス 9784781611693 ￥1900  
『クローディアの秘密』 E・L・カニグズバーグ 岩波少年文庫 9784001140507 ￥680  
『黒後家蜘蛛の会1』 アイザック・アシモフ 創元推理文庫 9784488167011 ￥780  
『ゴーストマン 時限紙幣』 ロジャー・ホップズ 文藝春秋 9784163901077 ￥1800  
『ゴールデンボーイ 恐怖の四季 春夏編』 スティーヴン・キング  
新潮文庫 9784102193129 ￥840  
『五匹の子豚』 アガサ・クリスティー ハヤカワ文庫 9784151310218 ￥860  
『最後の物たちの国で』 ポール・オースター 白水Uブックス 9784560071311 ￥1000  
『さよならを待つふたりのために』 ジョン・グリーン 岩波書店 9784001164053 ￥1800  
『ジーヴズの事件簿 大胆不敵の巻』 P・G・ウッドハウス 文春文庫 9784167705947 ￥570  
『シカゴ育ち』 スチュアート・ダイバック 白水Uブックス 9784560071434 ￥1050  
『初秋』 ロバート・B・パーカー ハヤカワ文庫 9784150756567 ￥800  
『スイート・ホーム殺人事件』 クレイグ・ライス ハヤカワ文庫 9784150715595 ￥900  
『ストリート・キッズ』 ドン・ウィンズロウ 創元推理文庫 9784488288013 ￥1100  
『設計者』 キム・オンス クオン 9784904855164 ￥2200  
『地上最後の刑事』 ベン・H・ウィンターズ ハヤカワポケットミステリ  
9784150018788 ￥1600 (※)  
『チャイナタウンからの葉書』 リチャード・ブローティガン  
ちくま文庫 9784480428318 ￥720  
『新訳 チェーホフ短編集』 アントン・パーヴロヴィチ・チェーホフ  
集英社 9784087734706 ￥1600

# 『穴 HOLES』

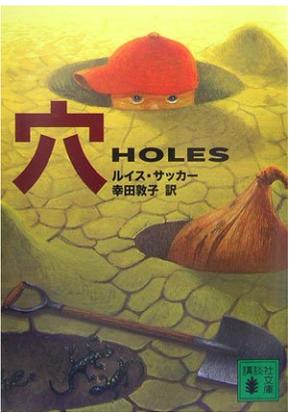
ルイス・サツカー 著 幸田 敦子 訳

講談社文庫 600円

無実の罪で矯正キャンプに放り込まれた主人公の脱  
出行。痛快な逆転劇で、主人公と一緒にハラハラドキ  
ドキ、泣いたり笑ったりしているうちに、こちらも元  
気になれるような本です。

あさのあつこが好きな人に

丸善 津田沼店 小松原 俊博



## 『アメリカの罾釣り』

リチャード・ブローティガン 著

藤本 和子 訳

新潮文庫 550円



この本にはひとつの大きなストーリーがあるわけではありません。街  
中に、自然のなかに、そして歴史のただなかに、失われた「アメリカの  
罾釣り」の姿を探す47の小さな物語がつまっています。そもそも、  
「アメリカの罾釣り」ってなんなのでしょう？ この本のなかにその答え  
を探そうち、あなたはすっかりブローティガンのとりこになっているは  
ずです。柴田元幸さんと岸本佐知子さんがもっとも尊敬する翻訳者が  
藤本和子さん。柴田さんが「翻訳史上の革命的事件だった」という藤  
本和子訳は、翻訳小説が苦手な人にこそ読んでいただければと思いま  
す。  
村上春樹が好きな人に

新潮社 出版部 須貝 利恵子



『いちばんここに似合う人』 ミランダ・ジュライ 著  
岸本 佐知子 訳  
新潮社 1900円

映画監督でもあるミランダ・ジュライのデビュー短篇集。孤独で不器用で、だ  
いぶ世の中からはずれてしまっている人々の世界を、驚くほどの鋭さと不思議  
な優しさをもって描き出しています。家出して自分たちだけで暮らそうとする  
二人の女の子の話「何も必要としない何か」が担当者のお気に入りです。  
「ちょっと変わった人たちの話」と思って読み始めても、だんだん「これは私  
の話だ……」と思えてくるに違いありません。

本谷有希子が好きな人に

新潮社 出版部 佐々木 一彦



翻訳家 小川 高義

『老人と海』アーネスト・ヘミングウェイ 著  
小川 高義 訳  
光文社古典新訳文庫 600円

同じ作品に複数の翻訳が出ることもあります。訳者  
が違つと、だいぶ違った印象になりますが、これは翻  
訳小説ならではの楽しみでしょう。ネイティブスピー  
カーには、こういう遊び方はできません。翻訳は、楽譜  
から演奏するようなもの。訳者はおもしろがつてプレ  
ーしています。

『一角獣・多角獣(異色作家短篇集)』  
シオドア・スタージョン 著  
小笠原 豊樹 訳  
早川書房 2000円



SF作家という枠・くくりには収まりきれない、最高の短篇作家の一人、スタージ  
ョンの、傑作揃いの作品集。入手しやすい文庫短篇集が他にあるけれど、最初  
の一冊にはぜひこれを。気に入ったら、スタージョンの他の作品集をあたるもよし、  
異色作家短篇集の他の巻をあたるもよし。

皆川博子の『結ぶ』か、『猫舌男爵』が好きな人に

編集者・ライター 空犬 太郎

『若き日の哀しみ』  
ダニロ・キシユ 著  
山崎 佳代子 訳  
創元ライブラリ 900円

旧ユーゴスラビアの作家ダニロ・キシユ。彼が送った過酷な  
少年時代を、アイロニーと美しい言葉で描き出す至極の短  
編集。中でも必読は「少年と犬」。訳者も、編集者も、校  
正者も、そして営業も泣いた、この一編だけでも必ずお読  
みください！ 時代・場所をこえる文章の力がここにあり  
ます。

小川洋子『博士の愛した数式』が好きな人に

東京創元社 営業部 小野木 常幸



『よきた、ジューズ』 P・G・ウッドハウス 著 森村 たまき 訳  
国書刊行会 2200円

海外文学は必ずしもキマジメな大文学や大小説から読み始める必要はないかもしれません。全世界で読まれている英国の国民的作家、P・G・ウッドハウスが書いたユーモア小説ジューズは、「自分は《完全にバカ》だ」と認識している人にも、また、「自分は《完全にバカ》だと認識している分だけ通常のバカより《より完全にバカ》なのだ」と考えている人にも、最適です。大爆笑うけ合います!!

国書刊行会 編集部 J・I



清流出版 木内 文乃

吉村昭『龍風』、館村行『粘膜』シリーズなどが好きな人に

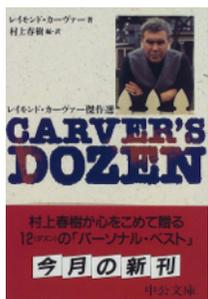
「理不尽、とにかく理不尽!」 “レジャーにやってきた男女が、突然人食い人種に襲われる凄惨なサバイバル・ホラー” というと陳腐に思われるかもしれませんが、勢いが違う。問答無用で食人族に追われます。おぞましいシーンはこれでもかというほどしつこく描かれますが、スピードに乗った流れるような文章は不思議と美しく、脳みそが痺れるような感覚に。嵐のような暴力と絶望に支配されたあとの開放感は、ちょっと歪んだストレス解消になると思います。清らかなものばかりじゃ満足できない人にお薦め。

『オフシーズン』

ジャック・ケッチャム 著

金子 浩 訳

扶桑社文庫 599円



『レイモンド・カーヴァー傑作選 Carver's Dozen』  
レイモンド・カーヴァー 著  
村上 春樹 編訳  
中公文庫 648円

あせる必要はありません。本は逃げないのだから。気持ちが落ち着いている時に、できるだけゆっくりとあなたの心に少しずつ、カーヴァーの小説を染み込ませていってください。その文章を言葉を1文字ずつ噛みしめるようにじっくりと味わいながら読めばきっとあなたの心のどこかに作用して、静かな深い感動を味わうことができます。またそれを味わいたくなったら、何度でも読み返せばいいのです。

書店員 @bibduck

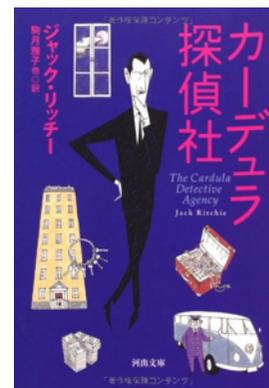
服装は常に黒一色。冷静沈着な頭脳と超人的肉体を兼ね備えた私立探偵。ただし、営業時間は夜間のみ。あえてそうだと明言はされないが、彼の正体はきつとそう。秘密の匂いを仄めかし、読み手の好奇心をそそる手腕。センスよく散りばめられた伏線を、これまたスマートに回収するときの、思わずニヤリとしてしまう絶妙なユーモア。ぜひこの海外ミステリ独特の愉しみ方を覚えていただきたい。そのための入口に最適な一冊です。

『カーデュラ探偵社』

ジャック・リッチー 著

駒月 雅子、好野 理恵 訳

河出文庫 840円

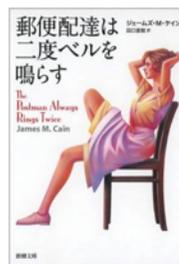


『怪物はささやく』 パトリック・ネス 著 池田 真紀子 訳  
あすなろ書房 1600円

十二時七分。心に秘密を抱えた少年コナーのもとへ、怪物が現れた。コナーの取り巻く世界は一変する。病気の母、そりの合わない祖母、よその国へ行った元父、いじめっ子のハリー、幼なじみのリリー。コナーが隠したかった気持ちを、怪物は墓を暴くように掘り起こしていく。胸を引き裂く苦しみが、のたうちまわるような悲しみが、コナーを悪夢から救い出す。ダウドが遺し、ネスが書き上げたこの作品は、読む者を深い余韻へ導いてくれるだろう。

伊藤計劃『屍者の帝国』が好きな人に

さくら舎 油井 亮太郎



河出書房新社 片山 郁

『郵便配達は二度ベルを鳴らす』  
新潮文庫 490円 田口 俊樹 訳  
光文社古典新訳文庫 880円 池田 真紀子 訳

残念ながら読んでいるものは読んだことすら忘れてしまふタチなのですが、「海外文学でなにか一冊」と尋ねられたらいつも、まず真っ先にこれが浮かびます。中村文則さんを洋画仕立てにしたような、ダークで、ぐいぐい引き込まれるドライブ感があって、奥底から深いテーマが見え隠れする名作。新潮文庫版が長年定番のベストセラーでしたが、ちようどよく光文社から古典新訳が出ております。ぜひ、どちらでも。



『ガットショット・ストレート』 ルー・バーニー 著  
細美 遥子 訳  
イーストプレス 1900円

ムシヨ帰りとは思えないほど人のよい男と、素人とは思えないほどクセのある美女の犯罪小説。この2人がある(臭そうな)モノを巡って敵になったり味方になったりめまぐるしく走り回るのだが、とにかくこの女がすこぶるいい！ 美しく嘘つきでコケティッシュで大胆で愛嬌があって打算的。峰不二子がより厄介になった感じと言えば少しはわかってもらえるだろうか。全国のワルい女好きのみなさん、ここに極上のタマがいませ！

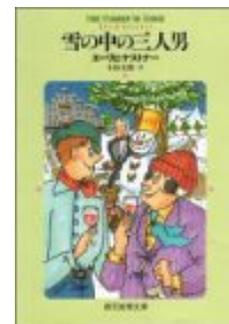
西村書店 吉田 朋子

『雪の中の三人男』 エーリヒ・ケストナー 著  
小松 太郎 訳  
創元推理文庫 580円

雪が降ったら雪だるまをつくらう  
百万長者と失業青年。両者は欠落してしまった何かに悲しみ、しかし、一方では満たされてもいる。それは僕たちと同じではないだろうか？ 百万長者と失業青年と読者。その何かというのはひとそれぞれだけれど、この物語は確かに心を暖めてくれる。何かを見つけたいたいあなたへ、最高のハッピーエンドを。

北杜夫『さびしい王様』が好きな人に

くまざわ書店 東大和店 田川 智史



## 『クローディアの秘密』

E・L・カニグズバーグ 著

松永 ふみ子 訳

岩波少年文庫 680円

“むかし式の家出なんか、あたしにはぜったいできっこないわ” いろんなことが、それはかつとなったあまりに、リュック一つしよって飛び出すこと。主人公クローディアは、不愉快なことが大嫌い！ そんな彼女の家出は、ただあるところから逃げ出すことではなく、あるところに逃げ込むことであれば美しい場所……そう、それはニューヨークのメトロポリタン美術館！ 実際の美術館の地図付。名作に思いを馳せながら一緒に美術館に住むという贅沢さを味わって。

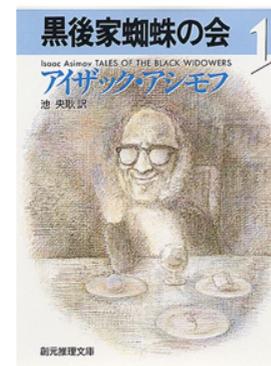


風濤社 市川 美芳

## 『黒後家蜘蛛の会 1』アイザック・アシモフ 著

池 央 耿 訳

創元推理文庫 780円



ニューヨークのレストランで月に一回、男たちが会食する。メンバーは特許弁護士、暗号専門家、作家、有機化学者、画家、数学者。毎回ゲストを呼んで、ちよとした謎解きがはじまる。それぞれの専門知識を総動員した侃々諤々の議論になるが、真相を言いついてるのはいつも、控えめな初老の給仕ヘンリーだった！ 凄惨なシーンがまったくない極上のパズルで、一編が30ページ程度のアンソロジーなので、忙しい人にもお勧め。

翻訳家 越前 敏弥

## 『ミスター・ピップ』ロイド・ジョーンズ 著 大友 りお 訳

白水社 2300円

ブーゲンビル島の少女マチルダが初めて読んだ本は、ディケンズの小説『大いなる遺産』 遠い異国の、遠い昔の物語。それでも彼女は、この物語を世界でいちばん身近に感じていました。故郷の島の独立抗争、亡命、幾多の苦難をこの物語と共に乗り越えていきます。はじめて読む海外文学に、私はこの本をおすすめしたいと思います。

その文学の醍醐味を、読者のみなさんに感じてほしいからです。物語は物語の力になる。

この本を読んだあなたも、ぜひだれかに物語り、彼や彼女の物語に力を与えてほしいと思います。

立川読書倶楽部 山本 安寿紗



## 『6日目の未来』

J・アッシャー、キャロリン・マックラー 著

野口 やよい 訳

新潮文庫 710円



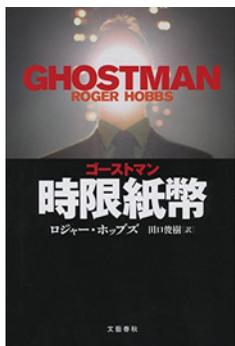
もしも '90 年代に、Facebook で未来の自分にアクセスできたら……。アメリカの高校生が、自分の未来を書き換えるためにあれこれ手を尽くすラブコメディ。親友の幸せそうな姿に嫉妬したり、気に入らない結婚相手と出会わないように画策したり、Facebook に翻弄される主人公たちの姿が、なぜかとっても眩しい。SFですが、キラキラした青春小説として読んでほしい一冊です。

筒井康隆 『時をかける少女』 が好きな人に

取次 N

『ゴーストマン 時限紙幣』 ロジャー・ホブズ 著  
 田口 俊樹 訳  
 文藝春秋 1800円

今世紀もっともクールなクライムノベルがこれ！ 犯罪のプロたちが跋扈する裏社会の危険な魅力全開!! シビれるほどカッコイイ小説とは、こういうものだ!!!



池波正太郎『闇の狩人』が好きな人に

ときわ書房 本店 宇田川 拓也

『ゴールデンボーイ 恐怖の四季 春夏編』  
 スティーヴン・キング 著 浅倉 久志 訳  
 新潮文庫 840円



映画ベストに必ず入る感動の名作『ショーシャンクの空に』の原作「刑務所のリタ・ハイワース」と、やはり映画化されたこちらは恐怖ものの「ゴールデンボーイ」の両極端な二篇が収録された、キングを一度読んでみたいと思っている方におすすめのお得な一冊。特に「刑務所の～」は、映画と原作で内容が違っていながらどちらも大傑作という稀有な例です(たいてい原作のほうが面白いんですよ)。

堀江良文堂書店 松戸店 佐藤 秀行

『町でいちばんの美女』

チャールズ・ブコウスキー 著

青野 聰 訳

新潮文庫 790円

「海外文学ってなんだか高尚でむずかしそう……」ブコウスキーを一ページ読めば、そんな先入観はぶっ飛ぶことでしょう。おもわず顔をしかめたくなくなるようなえげつない一行からなんだか分からないけどじんわりくる一行まで日本の小説にはない味わいを、ちよつと味見してみませんか？

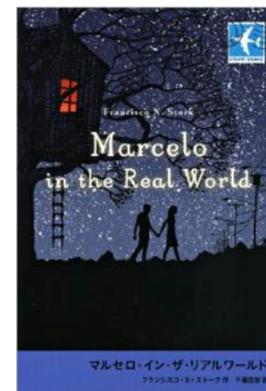
太宰治が好きな人に

新潮社 営業部 森永 恵理子



手前味噌ですが、担当しているシリーズ(STAMP BOOKS)から、ぜひ読んでいただきたい一冊をおすすめします！ 発達障害をもつ十七歳の少年、マルセロが初めて飛びこんだ「リアルな世界」そこは大人の思惑渦巻く法律事務所でした。知らない世界へ一歩踏み出し、試練に真摯に向き合うマルセロの姿に心洗われる、独創的かつ普遍的な青春小説です。

岩波書店 児童書編集部 須藤 建



『マルセロ・イン・ザ・リアルワールド』

フランシスコ・X・ストーク 著

千葉 茂樹 訳

岩波書店 1900円

『五匹の子豚』 アガサ・クリスティー 著

山本 やよい 訳

ハヤカワ文庫 860円

一月三十一日開催の、アガサ・クリスティー読書会課題書です。母の無実を晴らしてほしいという娘の依頼に、ポワロが十数年前に起きたある事件を調査します。この『五匹の子豚』は、先ごろ終了した海外ドラマシリーズ『名探偵ポワロ』で映像化もされていますので、ご存じのかたも多いかもれません。また、一冊の本を真ん中に、お茶とお菓子をおともに感想をあれこれ交わす、読書会にも興味をお持ちいただけましたら嬉しいです。

関西翻訳ミステリー読書会 世話人一同



『変愛小説集』 岸本 佐知子 編訳

講談社文庫 800円

タイトル通り、変てこな恋愛ものの短編集です。もう、SFだったりグロかったり病んでいたりと色々、個々の作家の個性を煮詰めきったような各短編、そこからしみ出てる、人間の、いとおしさすら感じるおかしみみたいな(もしかしたら真理のような)もの、そして、言葉の壁を越えてそこにやすやすと触れさせてくれる岸本さんの訳。海外文学はちょっと……自分とは隔たりのあるものだなあ……という、食わず嫌いの身構えを取っ払ってくれた一冊です。文庫になったこのタイミングで、ぜひ！日本人作家編も出ています(講談社さんの回し者ではありません。笑)。

河出書房新社 山本 晴日

『最後の物たちの国』

ポール・オースター 著

柴田 元幸 訳

白水Uブックス 1000円



消息が途絶えてしまった兄を捜すため、アンナ・ブルームは荒れ果てた街にたどり着いた。その土地では、すべての物がひとつまたひとつとなくなっていく。人は死んでいくばかりで、もはや生まれ出てくる者はいない。死以外に、そこから逃れるすべのない国……誰にも読まれるあてのない手紙に、この街の惨状を記録してゆくアンナ。絶望のどん底にあつてなお、「書く」という営みがほのかな、けれどたしかな希望を呼び起こす。その事実、静かに感動する。

浦沢直樹『モンスター』あさのあつこ『No.9』が好きな人に

紀伊国屋書店 グランフロント大阪店 星真一

『ペンギンの憂鬱』 アンドレイ・クルコフ 著

沼野 恭子 訳

新潮社 2000円



北欧っぽい懐かしい感じの色使いとイラストの可愛らしさに魅かれ、ほとんどジャケ買いでした。毎年冬になると手に取りたくなる本。主人公と一緒に暮らすペンギンの仕草がいちいち愛らしく‘きゅん’とするのでそれだけでじんわりと体が温まる気がします。300頁の長編でしかも遠いウクライナのお話……なのですが、全編に漂う謎解きのような空気に想像力をかきたてられ読破。

「チェブラーシュカ」的な世界、小川洋子『人質の朗読会』が好きな人に

白水社 佐藤 喜子

『ピース』 ジーン・ウルフ 著

西崎 憲、館野 浩美 訳

国書刊行会 2400円

アメリカのSF作家ウルフによる幻想文学長篇。読んでいて何が何だかわからないかもしれないが、文学とは本来そういうものである。読んですぐ感動する、納得する、すぐ美味しいと感じる、そんな清涼飲料水のような小説よりも、味わったことのない、得体のしれない美酒に酔い痴れようではないか。未成年でも文学なら大いに酩酊することができる。ウルフを読めば、あとは何でも読めるはず。

長谷川伸 『醜の母』 が好きな人に

国書刊行会 編集部 樽本 周馬



『さよならを待つふたりのために』 ジョン・グリーン 著  
金原 瑞人、竹内 茜 訳  
岩波書店 1800円

癌で闘病生活を送る16歳のヘイゼルとガス。二人の恋物語……ときいて、ああ、「泣ける」難病モノねと思いきや、むしろ逆。感傷はないけど笑いあり、同情はないけど、「(きみたちは)突然変異で生まれた失敗作」なんて言ってるのける登場人物あり。でも！ 最後にはやっぱり泣かされてしまうのだ。恋の小道具として、あちこちに本が登場するのも魅力。そもそもタイトルもシェイクスピアの引用だ。そして最後に。ガスが最高にかっこいい！

二月映画公開。

伊坂幸太郎 『チルドレン』『終末のフール』 が好きな人に。

翻訳家 三辺 律子



『ジーヴズの事件簿 大胆不敵の巻』  
P・G・ウッドハウス 著  
岩永 正勝 訳  
文春文庫 570円

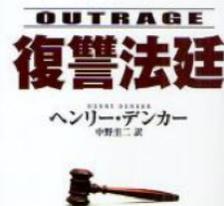
執事といえば、主人を敬い忠実に尽くす……という、イメージを覆す作品!! イギリス人らしいユーモアがあり、ちょっぴり皮肉も入った本書でそんな執事に会いに行ってみませんか？

堀江良文堂書店 松戸店 M

『復讐法廷』 ヘンリー・デッカー 著

中野 圭二 訳

ハヤカワ文庫 900円



多分、初めて自分の意志で買った大人向けの翻訳文学(当時は文春文庫でした)。アメリカの法体系や陪審員制度の知識が無いのは勿論のこと、「リーガルサスペンス」という言葉すら知らなかった高校生の私でさえ、時間を忘れてむさぼるように読んだのですから、普段、海外文学を敬遠している方でも、新進気鋭の弁護士ベン・ゴードンの勇氣と機転と正義感に大いに共感し、総括弁論には思わず喝采を叫びたくなること請け合いです！

丸善 津田沼店 沢田 史郎

『春にして君を離れ』 アガサ・クリスティー 著 中村 妙子 訳  
ハヤカワ文庫 680円

「ミステリーの女王」と呼ばれるアガサ・クリスティーがメアリ・ウェストマコット名義で書いたロマンス小説。理想の家庭を築いた主人公の女性が、ある友人との会話から、家族に疑念の目を向け始める。他人から聞く噂話、些細なすれ違い、夫と娘の緩やかな秘密の露呈からはじまる家庭崩壊は、向田邦子『阿修羅のごとく』を思わせる。しかし、主人公の心の内奥に住む「阿修羅」が向田の描くそれと種を別するのだが、そこはぜひ手にとってお読みください。

向田邦子『阿修羅のごとく』が好きな人に

版元営業 S・E



ブログ「キリキリンテーにうってつけの目」  
ぶくろろう

品川の工業地帯を思わせる灰色の下町シカゴに、極彩色の光がたちのぼる。冬の灯台、あいつらとつるんだ思い出し、眠れない夜更かしどもが集まるバーの看板、不器用な優しさ、恋人とのキス、すべてががらくた箱につめこんだピ―玉のように美しい。読むより翻訳するほうが速い、全盛期には初号から3号までいたという伝説を持つ名翻訳家、柴田元幸先生プロデュース。

白水Uブックス 1050円

柴田 元幸 訳

『シカゴ育ち』 スチュアート・ダイベック 著



『ハロルド・フライの思いもよらない巡礼の旅』  
レイチェル・ジョイス 著  
亀井 よし子 訳  
講談社 1900円

海外文学の何が苦手って翻訳が苦手だという人にこそ勧めたい！ きっと、読むうちにそんなことは頭から離れていってしまうことでしょう。死の間際の友人に会うため、一人の老人が1000キロもの道のりを手ぶらで歩きはじめてしまう物語。ただの感動話ではまったくありません。行動は突飛だけれど、ストーリーは一步一步足を踏みしめて進んでゆきます。誰にもある人生の後悔。最後のときに自分の足でしっかり歩いてきたと思えるように、足を前に前に出す。ただそれだけのことが、こんなに胸を打つとは！

恩田陸『夜のピクニック』が好きな人に

丸善 津田沼店 酒井 七海

十代の終わりに『初秋』を読み、私の翻訳小説の壁が一気に崩壊しました。言葉だけでなく、海外の文化にもものすごく興味を持ちました。

本の雑誌社 杉江 由次

『初秋』 ロバート・B・パーカー 著  
菊池 光 訳  
ハヤカワ文庫 800円



『スイート・ホーム殺人事件』 クレイグ・ライス 著 羽田 詩津子 訳  
ハヤカワ文庫 900円

隣家の奥さんが殺された！ 捜査に乗り出した3人の子どもたち、ダイナ、エイプリル、アーチャー。3人の悪知恵（嘘の証言は当たり前。架空の容疑者を作り出した！）によって、警察は振り回されてばかりで……。何より捜査の動機が素敵なんです。女手一つで3人を育てているミステリ作家のお母さん。もし3人が警察より早く事件を解決し、その手柄をお母さんのものにしたら？ お母さんは有名になって、本が売れる事は間違いないのです！ そう、すべてはお母さんに楽な生活をさせたいという純粋な子心（？）から！ 単なるほのぼの話と取られがちですが、実はミステリの文法にのっとった大傑作。それでいて子どもたちの愛らしさにニヤニヤする事間違いなし。ぜひご賞味あれ。



宮部みゆき『ステップファザー・ステップ』が好きな人に

西村書店 箱守 剛



花には色があり、言葉がある。それらは傷ついたヴィクトリアの心を癒し暮らした彩りを与えた。花言葉なんてものには全く縁の無い生活をおくって来たが、この作品にはそんな暮らしを一新させる力がある。その後、我が家の結婚記念日には毎年ブーケが飾られるようになった。そして暮らした彩りが増えた。

三浦綾子あたりのヒューマンものが好きな人に  
エクスナレッジ みぎた としき

『花言葉をさがして』

ヴァネッサ・デイフェンバー 著

金原 瑞人、西田 佳子 訳

ポプラ社 1600円



『ストリート・キッズ』 ドン・ウィンズロウ 著  
東江 一紀 訳  
創元推理文庫 1100円

ジャンルでいうと探偵小説になるのですが、スリで生計を立てていたストリートキッズの少年が一人前の探偵になっていく様が描かれた成長小説、淡い恋を描いた青春小説、擬似関係ながら親子の絆が描かれた家族小説としても楽しむことができます。ナイーブで皮肉屋の主人公ニール・ケアリーが魅力的な本書は「翻訳モノの探偵小説＝ハードボイルド」と敬遠している人にこそ読んで欲しい一冊です。

堀江良文堂 松戸店 高坂 浩一

言わなければよかったひとこと、うまくいかない恋、確かに知っているのに思い出せない相手の名前……過去に遠い国で発表された作品だなんてことを忘れてしまおうくらいに、どの短篇にも人生の「あるある！」がつまっています。ぜひ手に取ってみてください。いつもは苦く思い出されるあれこれも、この著者の手にかかる、不思議に美しくみえるのです。

角川春樹事務所 三輪 侑紀子

『バビロン行きの夜行列車』

レイ・ブラッドベリ 著

金原 瑞人、野沢 佳織 訳

ハルキ文庫 940円



『設計者』 キム・オンス 著 オ・スンヨン 訳

クオン 2200円

「人生はシートではない。過去も、記憶も、過ちも、後悔も、いかなることも、きれいに洗濯することはできない。」（主人公・レセンの物思いにふける台詞321ページより） 孤児院育ちの主人公レセンが、暗殺者として教育を受け、韓国現代史上の主要な暗殺事件を依頼通りこなしていくが、女ミットに命を狙われる。レセンの自宅の便器に爆弾を仕掛ける彼女の正体は……初めての方でも、違和感なくスラスラ読めちゃいます。

佐々木譲、誉田哲也、横山秀夫等の警察小説が好きな人に

クオン 鈴木文



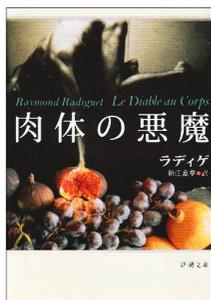
『肉体の悪魔』 レイモン・ラディゲ 著 新庄 嘉章 訳  
新潮文庫 430円

20歳で早逝した天才小説家ラディゲが10代で書いたという作品。ここまでリアルに、そして冷徹に男性の恋愛心理を描いた小説はいままで読んでいない。10代の若者が描く恋愛小説なんて、「恋に恋する」レベルで、読んでの方が恥ずかしくなって、正直読む気にもなれないと思っていたが、長年読み継がれる傑作とのことで、試しに読んだら驚いた。男性の、女性に対する残酷さと純粋さの両方を痛いほど克明に描いている。

まさに恋愛小説の金字塔といえる傑作!!

村上春樹『ノルウェイの森』が好きな人に

彩流社 春日 俊一



『地上最後の刑事』 ベン・H・ウィンタース 著

上野 元美 訳

ハヤカワポケットミステリ 1600円

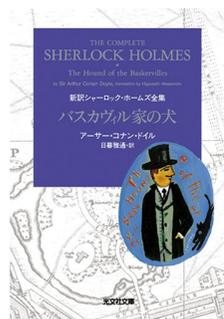


半年後、小惑星が激突して滅びると決まった世界。今日もまた自殺者が。なのに新人刑事パレスは他殺ではないかと疑い一所懸命に捜査を始める。世界は滅びるのに、なぜ一所懸命になれるの？

伊坂幸太郎『終末のフール』がお好きな方に！ 滅亡前の人間の日米差と素晴らしき共通項、ダブルで楽しめます！

神戸の出版社・苦楽堂 代表・石井 伸介

『バスカヴィル家の犬』  
アーサー・コナン・ドイル 著  
日暮 雅通 訳  
光文社文庫 629円



BBCド ラマ「SHERLOCK」で、再び注目を集めるコナン・ドイルが生んだ名探偵シャーロック・ホームズ。誰も一度は読んだことがあるかもしれません。数少ない長編となる本作は、イギリス南西部の荒涼とした原野が広がるダートムアが舞台。一族に伝わる魔犬伝説と怪死事件の謎に挑むホームズとワトスン。この光文社文庫の「新訳シャーロック・ホームズ全集」は読みやすい翻訳と豊富な注釈で、改めてホームズ物語を読み返すのにおすすめです。

原書房 営業部 山田 敬一

『チャイナタウンからの葉書』 リチャード・ブローティガン 著  
池澤 夏樹 訳  
ちくま文庫 720円

君も、“ブローティガン”に酔いしれろ！ ブローティガンは、誰よりも孤独で、誰よりも優しい。若いボクらには、気恥ずかしくて、ここまで格好よくふるまえない。いつかはブローティガンのようなラブレターが書けたら、「強さ」と「優しさ」で人と接せられたら、と思う。そんな気持ちで、今日も布団に入るのだ。



村上春樹『風の歌を聴け』が好きな人に

筑摩書房 販売部 出町 亮

『翼ひろげて』 ロビン・クライン 著  
坂崎 麻子 訳  
偕成社 1360円

両親の不仲が原因で夏休みに知り合いの家に居候をすることになった11歳の少年シーモア。ある日、彼は近くに住む20歳のアンジーに出会う。名前の通り天使のように美しい彼女と心を通わせるシーモアだが、彼女も生きにくさを抱え麻薬に溺れていた。'91年に書かれたティーン向けの小説でありながら、時代・世代を超えて今もお、ひとりの子どもに対して社会はどうあるのかを問いかける名作。Come Back to Show You I Could Flyという原題も美しい。

梨木香歩『西の魔女が死んだ』が好きな人に



辻内 千織

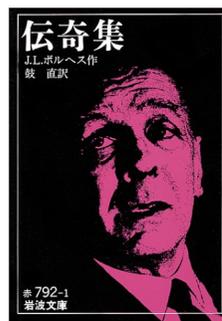
『伝奇集』 J・L・ボルヘス 著

鼓直 訳  
岩波文庫 720円

二十世紀最高の知性が紡いだ現代文学最高傑作。本書が志向するのは、もう一つの宇宙の創造、文字によるバベルの塔の建立。旧約聖書のバベルの塔は神の逆鱗に触れ崩壊したが、ボルヘスの紡ぐ文字の塔は未だ神殺しのその機会を伺っている。おそらくあなたは何もわからない。しかし、無類の面白さに打ちのめされて、本書を理解するために文学史を紐解き始める。ようこそ世界文学へ。まずはラスボスから始めよう。

太宰治『駆け込み訴え』が好きな人に

立川読書倶楽部 ドストエフスキー Jr.



『都市は何によってできているのか』

パク・ソンウォン 著  
吉川 凧 訳  
クオン 2200円

時間の概念、家族制度。未来は今日よりも発展しているだろうとか、文学が何かをなし得るとか、人と人が理解しあえるという、根拠のない思い込み。登場人物たちはそんな常識的な価値観を信じられず、ひたすら都会をさまよい歩く。ペシミスティックなのに、文章はなぜだかとてもユーモラス。読んでいるうち、そこがソウルなのか東京なのか分からなくなる。中村文則絶賛の、軽快な小説集。

村上春樹が好きな人に

翻訳家 吉川 凧



『罪と罰』 フョードル・ドストエフスキー 著

工藤 精一郎 訳

新潮文庫 (上)743円(下)781円

アルベール・カミュは言う「苦悩するという意味において、ドストエフスキーの登場人物は現代人なのだ」と。この本こそ、150年前のロシアで描かれたあなたの苦悩。この本こそが、日本近代小説の全ての頭痛の種。全ての苦悩する青年はラスコーリニコフで、全ての苦しむ少女はソーニャで、全ての正義を求める者はポルフィーリーだ。つまり僕らはドストエフスキーの子孫だ。太宰の出した宿題にまだ答えていないのなら、これが必修参考図書。

太宰治『人間失格』

芥川龍之介『或る阿呆の一生』等が好きな人に

一橋大学大学院 博士  
青木 耕平



『ディア・ライフ』 アリス・マンロー 著

小竹 由美子 訳

新潮社 2300円

「短編の名手」として 2013 年度ノーベル文学賞を受賞したアリス・マンローの、おそらく最後（引退宣言している）の短篇集。不倫、嫉妬、裏切り、どこにでもあるドラマが、マンローの手にかかると人の心の深淵を覗かせてくれる窓になり、生きるという営みの真実がとてつもない重量感で迫ってきます。

ベタつかない客観的な視線に共通するものを感じるのが、橋本治さんの短篇。『蝶のゆくえ』がお好きな方は、是非マンローを読んでみてください。

翻訳家 小竹 由美子

ロシア文学の名作は長くて手強いものが多いけれど、  
チェーホフなら大丈夫。  
翻訳でつかえることもありません。  
戯曲が有名ですが、  
まずは短篇がおすすめ。  
日本でも愛読されてきたチェーホフの短篇。  
時に哀しく可笑しく、  
時に切なく愛しい。  
読めば大切にしたいくなる  
話が詰まっています。  
渡辺淳一『仁術先生』が好きな人に

みずず書房  
嶋田 政義

『新訳 チェーホフ短篇集』

アントン・パーヴロヴィチ・チェーホフ 著

沼野 充義 訳

集英社 1600円



プーシキンはロシアの「国民詩人」ですが、ひよくとするとチェーホフは日本の「国民作家」かもしれませぬ。  
百年以上前に亡くなったこの作家は、いまなお日本人の心を捉えてやみませぬ。  
登場人物はロシア人ですが、まるで私たちの日常を描いたような現実味のあるお話しがずらり。  
沼野充義先生の翻訳が作り出す世界は、現代小説を読んでいるような圧倒的な迫力があります。  
初めての読者は、各短編についての解説をぜひ！

光文社古典新訳文庫 編集長

駒井 稔